



第32号（令和2年7月発行）から「ゆりかもめ」の表紙を飾った敦賀の観光スポット

巻頭言 敦賀市長 米澤 光治

新年あけましておめでとうございます
2025年の新春を迎え謹んでお慶びを申し上げます。
北陸新幹線が昨年3月に敦賀まで開業してから、開業前に比べて多くの観光客の方が敦賀を訪れてくださっています。市内でも多くのお客様にお越しいただいているとの声をお聞きしております。
敦賀は古くから交通の要衝として栄えてきた歴史のある、鉄道と港のまちです。そして北陸新幹線開業により、再び新たな交通の要衝となりました。本年も、音楽フェス「おぼろっく」の開催や10隻ものクルーズ船の入港を予定しており、新幹線開業を契機に、これから一人でも多くの方に敦賀を訪れていただき、また来たいと思っただけに、魅力を発信し、まちづくりに取り組んでいきたいと思っております。
北陸新幹線の敦賀開業を迎え、観光に携わる皆様や、市民の皆様の存在がますます重要になっている中で、これからも敦賀を訪れていただくお客様に笑顔になっていただけるよう、皆様のお力添えは必要不可欠ですので、今後とも変わらぬご協力を賜りますようお願い申し上げます。
皆様のご健康とご多幸をお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も宜しくお願い申し上げます。



新年あけましておめでとうございます

観光ボランティアガイドつるが ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。
昨年3月16日、北陸新幹線の金沢〜敦賀間が延伸開業され、敦賀駅では、テープカットやくす玉で開業を祝った後、東京行き一番列車のかがやき502号が午前6時11分に発車しました。
敦賀開業は、敦賀に生まれ育ち、また暮している私たちにとっては、東京や関東エリアに乗り換えなしで行けること、また東京駅の掲示板などで「敦賀行」が表示されることを、嬉しく誇らしく感じた日であったことを思い起こします。
また、開業記念イベント「つるが街波祭」では敦賀駅から金ヶ崎緑地にかけた中心市街地は多くの人々で賑わいました。開業以降も、多くの観光客と新たな交流が続いています。
観光ボランティアガイドつるがは、令和時代の幕開けから新幹線敦賀開業に向けた取組に着手、その後は新幹線敦賀開業まわりの推進会議の一員として開業に向けた準備段階から関わってきました。とりわけ、



敦賀を観光で訪れてくださる皆様をお迎えし、ご案内し、満足していただくための取組に注力してまいりました。
ガイド活動は開業後から増えてきており、本年も多くの観光客が敦賀を訪れてくださるものと確信しています。市民の皆様、ご一緒に最高のおもてなしを続けて参りましょう。
本年も、当会の活動についてご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受付けています。申込み用紙は、下記のアドレス内の「団体向け観光ガイド」から申込書をダウンロードし、必要事項を記入いただいた後、敦賀観光協会宛てにお送り下さい。

敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167
FAX 0770-22-8197
URL <https://tsuruga-kanko.jp/>

ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に來られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが TEL 0770-21-0056
敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167

編集後記

観光ボランティアガイドつるがの広報誌「ゆりかもめ」は、今号で50号となりました。2011年9月に会が発足して、その翌年に発刊し、継続して発行してまいりました。今回の表紙は、令和2年7月の第32号からの表紙を重複除いて並べてみました。これらを見ていても敦賀のみどころの多さを実感します。
最初の立石灯台の写真は前任の方の撮影ですが、それ以降は私が撮影しました。それぞれの撮影の現場も、早朝だったり、太陽の光の加減から何度も通い、撮影したことを思い出します。
記念の50号、巻頭言は敦賀市長にお願いし、ガイドつるがのメンバーの集合写真も撮影しました。
特集は「ガイドつるがのメンバーの推し」10カ所を掲載することにしました。が、それぞれのスポットの紹介文と写真をレイアウトしてみると、とても紙面に収まりませんでした。残りの5カ所は次号で掲載させていただきます。どうぞお楽しみに。（将）

敦賀のみどころ ⑫ ぜひ行つて欲しい敦賀の観光スポット(1)

敦賀のみどころについては、これまで本誌を通じてもご紹介していますが、今回は「観光ボランティアガイドつるが」のメンバーが「ぜひ行つて欲しい」と推しの10カ所を今号と次号の2回に分けてご紹介します。是非「街歩き」を市民との会話も交えながらお楽しみください。今回は市内中心部のみどころをご紹介しますし、次号では市全域に範囲を広げてご紹介する予定です。

(松村 由利子)

① 氣比神宮と松尾芭蕉

市民に「けいさん」の愛称で親しまれ、絶大な崇敬を集める北陸道総鎮守「氣比神宮」。いわゆる神籬磐境（ひもろぎいわさか）の形態を成している聖域も伝わっている。例大祭「けいさん祭り」では、市民総参加の敦賀祭りが開かれ、神輿や勇壮な六基の山車（日本遺産）の市内巡行に大盛り上がりとなる。



芭蕉像

② ムゼウムと敦賀港

かつて、敦賀は、東京との間で欧亜国際連絡列車が運行し、ヨーロッパの各都市とを結び「東洋の波止場」として繁栄した。その後、ロシア革命時にポーランド孤児が、第2次世界大戦時にユダヤ人難民が上陸した歴史がある。2020年にリニューアルオープンした「人道の港敦賀ムゼウム」では、「命の大切さ」と「平和の尊さ」を、



敦賀ムゼウム

発信し続けている。また、天然の良港である敦賀港は古くから大陸との玄関口として栄え、北前船の寄港地としても敦賀は繁栄したが、第二次世界大戦末期、湾内が機雷によって封鎖された歴史もある。現在、鞆山地区に新港が併設され、阪神・中京の二大経済圏に最も近い日本海側の物流拠点の港として重要な役割を果たしている。



朱塗りの大鳥居

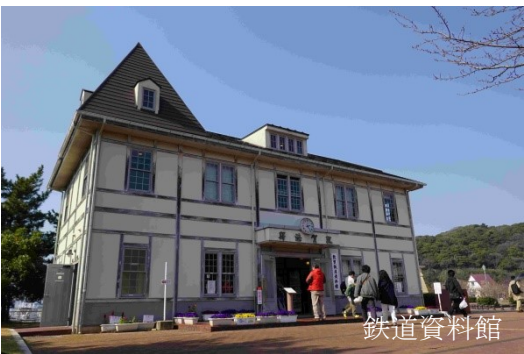
美しい朱漆塗りの木造両部鳥居は、歴史ある敦賀のシンボル。日本三大木造大鳥居の一つで、日本遺産の扁額が懸かる重要文化財である。俳聖松尾芭蕉も、この大鳥居をくぐって参詣しており、境内全域が、おくのほそ道の風景地「けいの明神」という名勝である。整備された芭蕉の銅像と句碑は必見。芭蕉も愛でた名月「氣比神宮」のぼる月」が日本百名月に認定。

④ 金ヶ崎緑地エリア

かつて港と鉄道の結節点として栄えた所が、今は金ヶ崎緑地となり、市民の憩いエリアである。白い巡視船の浮かぶ旧敦賀港を一望しながら、心地良い潮風にふかれ、のんびり過ごすのにピッタリ！冬季の敦賀港イルミネーションミライエはとってもステキ！すぐそばの敦賀鉄道資料館は、往時重要な位置を占めた敦賀港駅舎を再現したもの。内部では、敦賀の鉄道の歴史を貴重な資料等とともに紹介している。旅のロマンがかきたてられ、時がたつのも忘れるほど。南側に、今年建設120年になる敦賀赤レンガ倉庫がある。石油貯蔵倉庫用に建てられたもので、国の登録有形文化財。鉄道と港のジオラマ館やレストラン館として、皆様をお迎えする。



赤レンガ倉庫



鉄道資料館



⑤ 博物館通り

歴史ある港町つるがの景観が唯一残る「博物館通り」。ここに、旧大和田銀行本店建物を活用した敦賀市立博物館がある。公共性を兼ね備えた、歴史と繁栄を象徴する豪華な近代建造物で、重要文化財。これに力を注ぎ、敦賀の基礎を築いた事業家で郷土の偉人、2代目大和田莊七翁である。この翁の石像が正面に立つみなとつるが山車会館では、敦賀まつりで実際に使用する山車（やま）を展示し、活気ある祭りの様子を臨場感溢れた映像で紹介している。昨年にリニューアルオープン。



敦賀市立博物館とみなとつるが山車会館



また、別館の、日本遺産「荒海を越えた男たちの夢」の構成文化財である旧大和田銀行初代本店には、大谷吉嗣特設コーナーもある。



相互交流研修生と新保の陣屋

国の史跡武田耕雲斎等墓は、斬罪された方々の遺体が埋められた所。向かいの松原神社では、天狗党の411柱をご祭神としてお祀りし、毎年10月10日に例大祭を挙行している。境内には、一党823人収容の鮮蔵が、保存希望の市民運動を受けて一棟（日本遺産）だけ移築されていたが、昨年、そばの松島広場に移され周知されている。この史実の縁で姉妹都市となった水戸市とは毎年、相互交流研修が続いている。



本勝寺



本妙寺



長遠寺

③ 天狗党とゆかりの寺 陣屋 わが故郷には、敦賀で散った悲劇の幕末志士「水戸天狗党」ゆかりの史跡がある。耕雲斎が本陣を置き、使者と幾度も会談した新保陣屋（駅から北東約10^分）は、市の史跡である。天狗党が幕府に降伏後、しばらく幽居していたのが、本勝寺・本妙寺・長遠寺（元町）である。